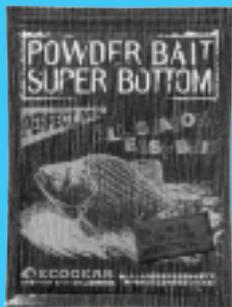


# 両ダンゴの底釣り

## ● 経時変化が極めて少なく使いやすい オールラウンドタイプ

パウダーベイトスーパーボトム 100cc  
+ 真底 100cc +  
ダンゴの底釣り冬 100cc + 水 150cc



+



+



+



### ● 作り方

各エサをボウルに入れ、水を入れてまんべんなくかき回し、全体が混ざったところで、2～3分放置する。放置して安定したら、20回くらい練り込む。この練り込みがポイントで、練り込みが足らないと、バラけが早くスレやウズリの原因となる。

### ● 特徴

経時変化が少なく、手や指へのベタツキも少ない。仕上がったエサは粘った感じだが、水に入ると適度にバラけるので、なじみやバラけ具合が掴みやすく、カラツンやスレが出たときの手直しも簡単。

### ● 使い方のコツと手直し

ネバリがあるがバラけるので、アタリが出だしたら、10回ずつ状況を見ながら練り込んでいく。また、練り込みだけではエサ持ちが悪く、食いアタリが出ないようなら、「パウダーベイトボトム」を足して練り込む。

### ● エサの大きさ

実寸大



直径10mm

● 作り方が簡単で  
管理釣り場での実績がある **ペレット系**

# ペレ道 100cc + ペレ底 100cc + 水 80cc



## ● 作り方

「ペレ道」と「ペレ底」を一緒にボウルに入れ、水を加えてかき回し、水が全体に染み込んだらしばらく放置。2～3分経って安定したら、10回くらいかき回し、エサに空気を入れてできあがり。

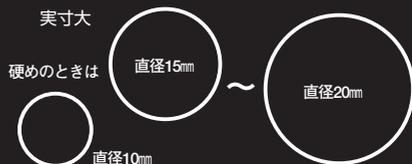
## ● 特徴

ペレットがふんだんに配合されていて、重さがあり、適度なネバリとバラけ具合が特徴。硬めに仕上がるので、そのまま小さく付けて釣るか、手水で軟らかくして、大きめ（親指大）に付けるのも良い。いずれにしても、そのときの状況により、手水の入れ方、練り込み方を調整する。

## ● 使い方のコツと手直し

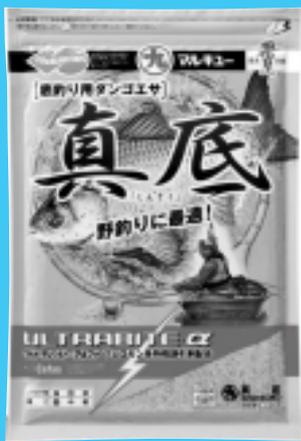
手直しは手水と「ペレ底」の振りかけ調整。なじんでからウキの動きがないようなら、手水で少しずつ軟らかくして調整する。煽りがきつくエサが持たないようなら、「ペレ底」を振りかけて練り込む。

## ● エサの大きさ



● 軽くて開き良くグルダンゴ系  
集魚力抜群のグルダンゴ系

真底 100cc +  
グルテンα21 200cc  
+ 水 300cc



+



+



● 作り方

「真底」と「グルテンα21」をボウルに入れたら、粉のうちに良く混ぜる。そこへ水を入れたら、余り時間をおかずに、すぐにかき回して、全体に水がいき渡ったら5分くらい放置してから使う。作りっぱなしを摘んで丁寧に丸めて、エサ付けする。

● 使い方のコツと手直し

持たないときはエサ付けを大きめにするが、それでも持たないときは、手の甲で5回ずつ押し練りを加える。逆に小さくつけても、ウキの戻りが悪いときは、手水を付けて押し練りしながら軟らかく調整する。

● 特徴

新べら狙い、あるいは野釣りなど幅広く使える。手水による手直しも簡単に硬めに作ると底釣りに良く、軟らかくすれば宙釣りでも使える。手水で手直しして、ウワズったときは、硬めに作り直す。「真底」が入っているのも、かなり練り込んでも、硬めに仕上がっても大丈夫だ。

● エサの大きさ

実寸大

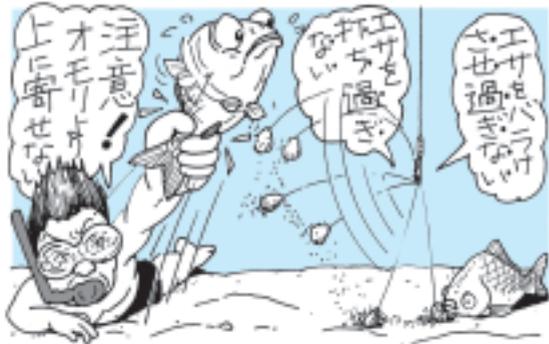


直径10mm

## ●釣り方のコツ

両ダンゴの底釣りでも最も注意しなければならないことは、魚を宙層、特にオモリより上に寄せないことだ。

それには、まずはエサを打ちすぎないこと。宙層と違い底釣りの場合は多く寄せたほうが良いということはない。



しかし、寄せないようにし過ぎるとアタリがなくなってしまう。適度にバラけるエサを使い、サワリはなくなならないように注意する。

もうひとつは、エサをバラけさせ過ぎないこと。ネバリが足りないといエサは途中でバラけてしまい、宙層に寄せてしまう。そうになると、なじんでからのアタリがなくなる。これがウワズリである。

また、アタリの取り方で、落ち込みをアワせるとウワズリと言われているが、それはアワせるからでなく、落ち込みアタリが出るエサだからだ。だから、落ち込みアタリがよく出るときは、練り込みによるネバリを増やすか、ネバリの多い素材を足す必要がある。また、ネバリを付けてもエサが小さいとハリスの倒れこみ時にアタってしまうので、そういったときは、少し大きめにエサ付けをしよう。

管理釣り場の場合は底が取れる最も短い竿か最長の竿のどちらかにすると良く、中途半端な長さだと、ウワズリやすく釣りづらい。ウキは底釣り用の細身のボディがベストだが、浮力は大きいほうが釣りやすいので、これでは大きすぎるかなと思えるくらいものを選択する。エサのなじみやバラけた後の戻しなど、基本的な動きが出ないときはウキの大きさが小さ過ぎる（浮力が足りない）と判断する。

### 基本セッティング

竿●8～21尺

ウキ●8尺=羽根寸8～10cm、15尺=羽根寸11～12cm、21尺=羽根寸13～15cm、パイフットップ or ムクトップ

ミチイト●0.8～1.0号

ハリス●0.4号上27～50cm、下32～60cm

ハリ●上下4～7号

●オモリ 絡み止めタングステンオモリ  
実寸大

1g +

8尺●0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×15mm

15尺●0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×25mm

21尺●0.25mm厚  
板オモリ  
17mm×35mm

## ここがポイント1 Q&A

### サワリがあるのになかなか食いアタリが出ないとき

この原因は次の3つが考えられます。

- ①ハリスが短いこと
- ②エサのネバリが足りないこと
- ③エサが小さいこと

①の場合は、10cmを目安に長くすると良いでしょう。なじんでからカラツンだとしても、まずは食いアタリが出る長さにすることが大切です。

②の場合は、開きが早いとなじんでからサワリだけで食いあたりになりません。10回を目安に練りこんでいきましょう。

③の場合は、エサが小さいことでアピールが足らず、へら鮎を底へ向かせられていない状態です。エサを大きくすることで興味を引かせます。



## ここがポイント2 Q&A

### アタリがあるのに釣れないとき

この原因は次の2つが考えられます。

- ①ズラシが足りないとき
- ②エサが硬いとき

①の対処は、タナを3cmずつ深くして様子を見ましょう。逆にズラシすぎるとアタリがなくなりますので、注意してください。カラツンとアタリが出なくなるその間に正解のタナがあります。

②はエサが硬すぎるため、吸い込んですぐ吐き出すカラツンです。手水を付けて軟らかくしてみましょう。ここで、軟らかくした直後はアタリがなくなることがあります。今までよりも軟らかくした分バラけるようになったため、食いアタリにならなくなってしまうのです。こういうときは、練りを加えてエサ持ちを良くし、食いアタリが出るように調整します。同時にエサの大きさも変わることがあるので注意が必要で、通常は大きくなることが多いです。

